



妙たえの光ひかり

復刊130号

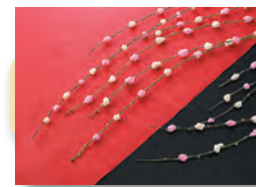
世話人26年、総代6年を終えて

西蒲区

高橋英一さん(75歳)

升瀧の農家に生まれた英一さん。名前は英一だが、実は5人兄弟の三男だ。長男が同じエイイチと名付けられたが、生まれてすぐに亡くなったと聞いている。次は女の子で、その後生まれた次男もまた早くに亡くなった。そんな状況なので、自分が生まれたときには、何とか生きて欲しいと、両親からはとても大事に育てられたと語る。

小学校3年生の頃、右手に大怪我をした。あちこちの病院を巡ったが治療が難しく、切断も止むなしという状況だったという。しかし、幸運にも、当時日本における「手の外科」の先駆者であり、世界的権威の田島達也医師に出会い「小学生なのに切断したら大変だ」と、切断をすることなく治してもらった。足の皮を移植し、神経を繋ぐ治療で、5年間に8回の入院と9回の手術を受け、後遺症などは全くない。だから、今ある自分の手は「作られた手」なのだという。跡取りとして、時間もお金もかけて尽してくれた両親にも感謝している。(2ページに続く)



行事案内



げつきおさ ふだくば

月忌納め(お札配り)

12月中に地元の檀徒宅へ、来年のお札を持ってお経に伺います。県外の方でお札を希望される方にはお送りします。

大晦日深夜の二年参りを午後の「年末詣」に変更します!

ねんまつもうで たき

年末詣・お焚き上げ・鐘つき

12月31日(火) 14時~16時

毎年深夜に行っていた二年参りですが、時間帯を午後に変えて「年末詣」と改めます。法要、鐘つき、福引き等は変わらず行いますが、午後2時~4時にお越し下さい。(深夜は消灯し、閉門します。)詳細はチラシをご覧ください。※お焚き上げの古いお札やしめ縄等、当日お持ちになれない方は、事前にお寺へお持ち下さい。



年始参り

1月1日(水)、2日(木)

午前9時~午後4時。玄関での受付後、住職が大広間でお待ちしています。令和7年に年回忌を迎えるお宅は、法事の申込みをお受けします。元旦のお茶席は実施の予定です。お参りの人数制限はありません。近年はご家族連れの方が増えています。



ほしまつ きがんふだ

『星祭り』祈願札

人には個々に、その年の星回りがあります。新年の星回りの安泰を祈願するのが『星祭り』です。ご希望の方にはご家庭で一枚のお札にして1軒2千円でお届けしています。新規お申し込みの方は、別紙申込書にご家族の氏名、性別、生年月日を書いてお知らせ下さい。継続の方は申込不要ですが、慶弔等でご家族に変更があった場合はお知らせください。新規、変更ともに12月20日までお願い致します。

厄除け祈願祭

2月8日(土)、9日(日) ※両日とも9時半から

厄年の早見表は別紙チラシにあります。厄年以外の方でも「家内安全」「合格祈願」等お受けいたします。同封の返信用ハガキにてお申込みください。



しんぎょうかい

月例信行会とボランティア

1、2月の信行会とボランティアはお休みで、3月から再開の予定です。

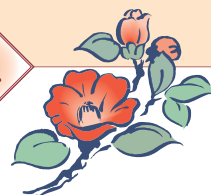
3月5日(水)「信行会」、3月15日(土)「ボランティア」です。

あ と が き

忙しい秋の行事も終わりました。お寺では、少しずつ来年の準備が始まっています。今年の大晦日の行事は、「年末詣」として大晦日の午後2時~4時に行います。今年の「鐘」は午後響くこととなりますので、お間違いのないようお願いいたします。変わるものと変わらないものを見定めて、新しい年を迎えたいりましょう。

(新倉理恵子)





西蒲区 高橋英一さん

自分でもどうしようもないことを助けられて

父親は自分と同じ三男坊だった。若い頃は裕福で、上2人の兄は、親戚から紹介してもらった県の土木部などに就職した。いいところに勤めていたらしいが、我儘に育てられ、三男だった英一さんの父に跡継ぎのお鉢がまわつてきた。家は没落しかけており、相当貧乏だったとも聞いている。そんなときに、土蔵から七面様の掛け軸が出てきた。夫婦2人で七面様を拝み、貧乏のどん底から頑張つて家や小屋を建てられるほどになった。信仰していたから守られていたのだと思う。

自分も両親ほど熱心ではないが、困ったことがあつたとき、不思議と解決することが多い。田植えをしていて稲が2反分足りなくなったときは、近所の人が分けてくれたりする。そんなことがたくさんある。損得勘定で信仰をしているわけではないけれども、自分でもどうしようもないことを助けて貰っているのは常に感じている。「自分は運がとても良い」と思っている。人との縁に恵まれて「としみじみ振り返る。」

「私が幸せになるために結婚してください」

妻の摩谷子さんは静岡県の出身だ。英一さんにとって米農家は稲刈りが終わる10月末に仕事が終わる。でも収入は必要なので、様々な仕事をした。みかんもぎのアルバイト先で出会ったのが摩谷子さんだった。19歳の時だ。それ以降、毎冬アルバイトに行き、22歳で結婚した。お互い4月生まれの同級生だ。けれども生活レベルは3倍くらい違つた。「幸せになれない」と反対された。「新潟は静岡より10年遅れている」とも言われたが「あなたを幸せにはできないけれど、私が幸せになるために結婚してください」とプロポーズした。50年経つた今、3人の子どもを育て上げ、年に1度必ず夫婦で遠出の旅をするに決めている。静岡の義父は、癌のお見舞いに伺つた折「何事も無く娘を幸せにしてくれてありがとう」と言ってくれた。

若い時の苦労は買ってでも

自分は親に大事にされ、チャホヤされすぎて我儘になつてた。若い時の苦労は買ってでもしろ」と聞いて

「しばらく苦労しよう」と考え、神奈川の日産自動車の工場で、部品組み立ての仕事は何年かした。全国から様々な人が集まる中で、精神的に鍛えられ、自分でもびっくりするくらい心が強くなったと自覚している。

その後はずっと兼業農家だ。タクシードライバーとして勤めに、出て、小型タクシーに20年乗り、黒塗りのハイヤーに10年乗った。特に後半の10年間は勉強になった。一度、銀座のクラブのママを乗せたことがあるが、その時「お店の女の子たちには、毎朝必ず5紙の新聞に目を通すことを義務付けている。銀座に来る人を相手にするには、お客様のどんな話題にもついていける知識がなければいけない」という話を聞き、運転手も同じだと思つた。相撲の話でも観光の話でも、乗客にふられた話に乗れないとダメだ。そこから、雑学レベルでも何でも学ぶようになり、「1日に何かひとつ、新しいことを学ぶ」を人生のモットーとするようになった。最後の10年は管理職として営業所の所長を任せられ、70人のドライバーを管理したが、後輩の運転手にもプロのドライバーの仕事は乗客を運ぶ

ことだけではないと指導した。人の世話が出来るように生きていきたい

75年生きてきて思うのは、人にずいぶん世話になつたということだ。世話にならないと生きていけないと実感する。だから「これからは、人の世話が出来るようになりたい」と語る。

妙光寺世話人として26年、全権信徒の代表である総代として6年勤めた。役についたからにはお寺を良くしたいと考えてきた。「妙光寺は良いお寺ですねえ」と言われた。良くなって欲しい、どこのお寺にも負けたくないという気持ちがあつた。つい厳しいことや面倒くさいことを言つてしまふときもあつた。なんでもかんでも賛成すれば、ご院首様やご前様はいいのかもしれないが、皆がイエスマンばかりでは発展がない。憎まれ役でもいいじゃないか」と振り返る。「これからは若い住職のやりかたで、同じ世代の人たちがどうすれば、お寺から離れないでくれるのか、考えていつて欲しい」と期待を語つてくださった。(住職記)

美味しいお茶 安 穩

小川良恵



いきなり寒くなりました

残暑厳しい10月も過ぎ、ようやく秋めいてきたと思つたら、暖房なしではいられない季節になりました。ここ数年は「夏から秋を飛ばして冬になつてしまふ」などとも言われています。お寺のカメモシたちも大慌てで寒さから逃れ、屋内へ逃げ込んで来ています。そのためお寺ではカメモシに出会うことが増え、虫が苦手な皆様にはご心配をおかけしますが、この時期だけ何卒ご辛抱ください。

檀徒Nさんのお茶

さて、この冷え込みですっかり温かい飲み物が恋しくなりました。お寺でお出しするお茶も、温かいものになっています。

先日、月回向に伺っている檀徒のNさんが亡くなりました。そこで頂くお茶がいつもあんまりにも美味しかったので、葬儀の後で遺族に「故人様には、いつも丁寧な淹れたお茶を出して頂いて、嬉しかったです」とお伝えしたところ、島根から取り寄せているものだと伺いました。親戚の娘さんが嫁いだ縁で、昔から取り寄せているのだそうです。茶所という静岡や狭山、宇治といったイメージがありましたので予想外でした。

人を思いやる心

もちろん、茶葉が良いだけではなく、心を込めて淹れて下さったから美味しかったのだでしょう

島根のお茶

う。日本に初めて茶葉を持ち込んだのは、唐に留学していたお坊さんだそうです。お茶にはカフェインが含まれているので、修行中の眠気覚ましに皆で飲むようになり、だんだんと、身分や性別、年齢にかかわらずお客様をもてなす「茶道」として研鑽されていったようです。人を思いやることや誰もが平等という意味で、茶道と仏教には深い縁があります。

「お茶くみ」というと、一昔前は若い女性社員の仕事とされて、令和の今では男女不平等だと指摘されますが、そもそもお茶を淹れるというのは、茶道の亭主のように、家の主が手ずから行うからこそ、最高のおもてなしでした。セルフサービスのお茶も気楽で良いものですが、お寺でも出来る限り丁寧な淹れたお茶をお出ししたいと思えます。

後日談ですが、Nさんの葬儀から一か月程経つた頃、別の法事でお伺いしたお宅で出して頂いたお茶が、Nさんのお茶とそっくりな味がしたのです。びっくりして「美味しいお茶ですねえ」と言つたところ、「お友達から貰つたものなのだから、娘さんが嫁がれた土地から贈られてくるぞうで」とパッケージを見せてくださいました。おや?と思うと、やはり島根産のお茶でした。美味しいこのお茶を弘通しようとしている人がいるようです。私も取り寄せてみようかな。
*弘通…仏教語。仏の教えが広く世に行われること。

◆「日蓮宗布教研修所」研修生参拝◆
10月17日(木)

研修生4名と指導職員が参拝。境内を案内の後、妙光寺の運営等について2時間の滞在研修でした。



◆中野亘陶展◆
10月4日(金)～9日(水)

毎年秋の恒例です。常連の方に加えて、コンサートの来場者で賑わいました。



寺のうごき



◆総本山身延山団体参拝旅行◆
9月29日(日)～30日(月)

29名が大型バスでゆったりと参拝、初対面の方々もうちとけ和やかな旅でした。



ひがんえ
◆秋期彼岸会法要◆
9月23日(祝)月

あいにくの雨降り、墓地での法要は中止。昼のおときをはさみ、ご前様の法話がありました。



えしき
◆お会式 第22回法号授与式 箕輪顕寿上人法話◆
10月27日(日)



日蓮聖人ご命日のお会式法要に併せて、生前に戒名をお付けする法号授与式。生前戒名の希望者12名中、遠方やご高齢等で欠席の方もあり、当日は5名が朝9時の研修から参加。お茶席の接待、お会式参列の皆様の前で法号を授与されました。

当番手作りによる昼食のおときをはさみ、午後からの参加者も交えて千葉県大多喜町の妙法生寺、箕輪顕寿ご住職に法話をいただきました。箕輪上人は、大変ユニークなご住職としてTV番組「ボツンと一軒家」で全国放送されました。お話は終始和やかで心に染みるものでした。弟の箕輪顕量上人は東京大学仏教学教授としても知られます。



◆NAGISAフェスティバル2024◆
10月5日(土)

アコーディオニストのcobaさんとバイオリニストの奥村愛さんによる、院首夫人・故小川なぎささんの追悼演奏会。晴れ上がった秋空のもと、院庭一杯の270人の皆さんからは「すばらしかった」と口々に感想が寄せられました。



◆『日蓮宗北陸教区檀信徒研修道場』◆
開催
9月26日(木)～27日(金)

檀信徒・僧侶合わせて40名余りが、2日間にわたり読経、写経、法話、境内参拝等の研修を行いました。



◆秋奉加◆

今年も農家の檀徒の皆様から秋奉加米をお供え戴きました。お礼申し上げます。



野鳥に導かれて妙光寺へ

飯田重行さん

自然豊かな妙光寺境内には、
たくさん野鳥がやって来ます。

「良い一枚が撮れたから」と飯田さんが

写真を持ってきてくださったのは、昨年のことでした。
池に立つオブジェ（陶芸家・中野亘さん作）に止まる
カワセミの青い姿が、降る雪の中で鮮やかです。

年に何度かは必ず妙光寺を訪れるという飯田さんに、
お話をうかがいました。

Q 写真を撮始めた

いきさつを聞かせてください。

飯田 私は妙光寺に近い赤塚の農家に生まれて、ずっと住んでいます。父は身体が弱くて小学5年頃から農業を手伝っていました。高校にも行きたかったけれど進学はあきらめて農家を継いで、15歳から佐潟の周辺で葉タバコ・スイカ・大根・米を作っていました。赤塚の農家はタバコの作業が2月から始まるので、一年中忙しくて「赤塚には嫁にやれない」と言われたほどだった。



飯田重行さん
1947年(昭和22年)生まれの77歳。新潟市西区赤塚で農業を営むかわら、アマチュア写真家として地元・佐潟を中心とした自然を撮影している。



たんです。忙しい毎日だったのですが、ご存じのようにタバコを吸う人が減ってきたこともあって、60歳の時に葉タバコ栽培をやめました。それまでは子育て中に娘をビデオ撮影したりしていたんですが、60歳を機に本格的にカメラをやることにしました。

Q

最初から被写体は野鳥ですか？

飯田 一番初めはトキを撮っていたんです。佐渡で放鳥されたトキが新潟市に飛来した時期で、私も先輩の

Q

妙光寺の野鳥を撮るようになったのは、なぜですか？

マチユア写真家に教えてもらいながら、トキの写真展に出品するようになりました。佐渡にも幾度も行きました。SLを撮ることもありますが、私はもっぱら野鳥を撮っています。

Q

トキだけではなく、地元・佐潟の野鳥を撮るようになり、「佐潟の自然を守る会」でも活動するようになりました。野鳥は生態をよく知らないし、撮影できません。それで調べていくうちに、佐潟の鳥は角田山付近から来ると知ったんです。妙光寺近くから川の流れをたどって、山裾にある境内に辿り着きました。

Q

野鳥に導かれて妙光寺に来たわけですね。

飯田 そうなんです。ただ私の義弟が大病をした時に「妙光寺にお参りすると良い」と聞いて、ここにお参りして今も元気にしています。ご縁ですね。

Q

境内には野鳥が多いように感じます。

飯田 野鳥には、きれいな水辺と花があることが大事です。浅瀬のところで水浴びをするし、花の蜜や実を

食べたります鳥もいます。カワセミ、メジロ、ヒヨドリ、ウグイス、ジョウビタキ、アカゲラ、アオゲラ、コゲラなどを境内で見かけます。ウグイスやジョウビタキを桜の花を背景にして撮ると、本当にいいですよ。

Q 環境が変化して、野鳥も減っていたりしますか？

飯田 野鳥はとても敏感な生き物です。私の住む佐潟では、以前は水面を覆って咲き乱れていたハスですが、この10年ですっかりなくなりました。夏の高湿、周囲の畑の肥料、水質汚染、緑カメが大発生してハスの新芽を食べる等、指摘されています。ハスの葉がなくなってしまうので、鳥の餌である小魚が隠れるところもなくなり、小さい鳥が減るところもなくなっています。野鳥が減っているのはカラサです。ほんの少しの変化で、野鳥はいなくなってしまう。

Q 妙光寺の境内は、今のままのようですか？

飯田 野鳥にとってはとても良い環境だと思います。メジロは椿や桜、アケビなどの甘い実が大好きです。



実がなる時期にやってきて、水浴びもします。羽に付いた汚れを落とされているんです。三光鳥は鳴き声を聞いたことがあります。「チュキチュキホイホイ」と独特の声で、忘れられません。手入れされていない虫のいるような杉林に巣を作ります。妙光寺の境内には、鳥の好む環境がありますね。

Q 境内での撮影は、どのようにされていますか？

飯田 百メートルくらい離れた車の中で待ちます。野鳥の撮影は、追い求めてもダメなんです。歩き回って撮れるなんていうことはありません。追いかけるとシャッターが切れたとしても、写っているのはしっほだけです。私は境内に来ても、2〜3時間で切り上げます。野鳥の世界にお邪魔しているわけですから。昼過ぎの方が光の加減がいいので、午後3時〜4時が中心ですね。そして通います。あのカワセミの写真も、何日も通って撮れたんですよ。

Q えっ！ 数日ばかりなんですね。

飯田 そうです。一日何も撮れなくても、待つことが大切です。野鳥の撮影は忍耐がいります。角田岬でハヤブサのつがいの子育てするのを、何年もかけて撮影したこともありま。生態をよく知って、毎日通って動きを見て、1時間くらい待っていると、葉のすき間から野鳥が顔をのぞかせてくれるんです。

Q 作品の発表も、しておられますね。

飯田 コンテストにも出品していますし、昨年は県展で入賞しました。それから自宅の納屋を「納屋ギャラリー」佐潟和みの風」と名付けて、年に1度みなさんに私の写真を見ていただいています。今年は「猛禽類の世界 濁の風景」というテーマで、11月の初めに展覧会をしました。いずれ写真集も出したいと思っています。

妙光寺でも、絵や写真の

展覧会をしています。

是非一度、境内の野鳥の写真で

展覧会をしてみてください。

飯田 そうですね。是非近いうちに

やらせてください。

(聴いた人・編集部 新倉理恵子)

誌上法話 小川良恵

仏教の修行者を守る呪文
『陀羅尼品第二十六』

陀羅尼とはサンスクリット語の

「ダーラニー」を音訳した言葉で、「総持」を意味します。

「総持」はももとは、ヨガの修行に由来する精神統一の方法です。

仏教的には、「正しい教えを記憶して忘れず、誤った教えを遮って従わないこと、を意味します。

私たちに教えられる独自の呪文

陀羅尼はまた、呪とも訳します。咒は、つまりは「おまじない」です。仏教を信じる者が正法（正しい教え）を受持し、心を乱されず修行するための呪文といえは分かりやすいでしょうか。

陀羅尼品の中では、薬王菩薩・勇施菩薩・毘沙門天王・持国天王・十羅刹女（鬼子母神）が、仏教の修行者を護ると誓いを立て、それぞれが私たちに独自の呪文を教えて下さっています。これを唱えれば、危害を加えられたり、悪意に付け込まれ

たりすることがないというのです。

「アニ・マニ・マネイ・ママネ…」
サンスクリット語(古代インド語)

日蓮宗でご祈祷を受けた方は「アニ・マニ・マネイ・ママネ……」と声高らかな読経を聞いたことがあるかと思いますが、あのお経が陀羅尼品で説かれる呪文です。呪文は音の響きやリズムが大切であり、意識はしないという原則があります。

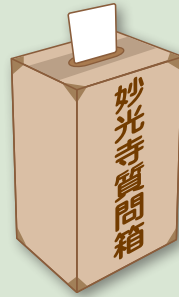
皆さんも子どもの頃、転んで痛い思いをしたとき、親や祖母から「ちちんぷいぷい」と唱えてもらったことを思い出していただくとうれしいと思いま

す。意味は考えていなかったでしょう。近代化以前の世界では、特定の聖なる言葉を呪文として唱えることで、聖なるものの力によって護られるという考えがありました。

呪文は五種不翻

ももとは、五種不翻といって、唐の時代の玄奘三蔵（三蔵法師）が、仏典をサンスクリット語から中国語に訳した際、翻訳することが出来ない言葉や翻訳すべきでない言葉については、原語のままにしたことがはじまりのようです。





Q 父は満81歳で亡くなりましたが、位牌には「享年83」と書かれていました。なぜでしょうか？

ぎょうねん きょうねん
「行年」と「享年」の違い

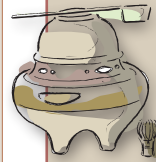
大漢和辞典によれば、「行年」は「経過した年齢、この世に生きながらえた年数」、「享年」は「天から享けた年数、のことです。どちらも「数え年」のことで、大きな意味の違いはありません。「数え年」は、生まれた日に1歳となり、毎年1月1日に1歳年を取る考え方です。日本では江戸時代まで、「数え年」が一般的に使われていました。全員が一斉に年を取りますから、誕生日はあまり重視されなかったようです。

明治時代に年齢に関する法律が制定され、半世紀ほどは「数え年」と「満年齢」が混在して使われていたそうです。戦後になって改めて法律で年齢は「満年齢」で数えると定められたので、「満年齢」が一般的になりました。さらに近年は、行年を満年齢、享年を数え年と使い分けることもあるようです。言葉の使い方は変わっていくものから、どちらが正しいということはありません。

因みに、仏教では母体にいるときから人の命として年齢を数えるから、数え年という説もあります。また数え年は没年が分かれば生年が特定できる合理性もあります。厄年や米寿などのお祝い事も、還暦以外は数え年ですのでご注意ください。

妙光寺ではこれからは「享年」表記で統一

妙光寺では、行年を「この世で修行した年数」として過去帳や位牌などにも表記してきました。しかし、数え年なのか満年齢なのか分かりにくいという声があります。これを避けるため、今後は「享年〇〇」（享年の場合、歳はつけません）と統一いたします。「享年」ですから「数え年」です。とはいえ、これまで行年を使ってきましたので、ご自宅の夫婦位牌などで、行年と享年が混じってしまう違和感もあるかと思います。その場合は、行年や満年齢表記もいたしますのでご相談ください。



角田山妙光寺インフォメーション

山務員の手不足

長年妙光寺では山務員（役僧）が、隣接する職員寮に住み込みで常勤する体制でした。昨年春それまで4年間勤務した大分市・菊池上人が退職して以降、近隣のご住職3名が通勤による非常勤の交代制で勤務しています。しかしそれも今般、それぞれの事情で勤務が困難とのことで退職となりました。お盆や行事等の繁忙期のお手伝いは従前とおりです。

現在常勤できる方を募集していますが、全国的に僧侶不足で見つかりません。昨今僧侶の志望者が激減して、総本山身延山ですら修行僧不足に困っているほどの事態です。引き続き人材確保を目指しつつ、新体制を検討します。しばらくはご不便をお掛けすることに、ご理解ご協力をお願いします。

本堂前の銘松が枯れました

妙光寺のシンボルと言われた本堂前の松が、枯死しました。樹齢400年以上と推察され、新潟市舟戸・笹川薫さんのご先祖が奉納されたと記録があります。業者による検査で、原因は松食い虫

と診断されました。毎年防除のための薬剤散布と栄養剤投与を欠かしていませんでしたが、近年の猛威には限界がありました。樹木といえども生き物であり、残念ですが寿命と考えるしかありません。



急遽のイノシシ対策
2期工事

出没するイノシシ対策として、春に境内を金網とフェンスで囲みました。効果絶大で、外側では夜間に土を掘り返した痕跡が拡大していますが、内部への侵入はありません。ただ資金不足で本堂と客殿の裏側60mは、簡易型電気柵で対応



しました。これが冬期の積雪時には効果がないとのことで、急遽ブロック塀を積み恒久対策工事を行います。同時に杉の伐採4本、前回伐採木の抜根、整地作業等が必要で、取りあえず借り入れて経費を賄います。今後の整備についても皆様のご協力を仰がなければならず、改めてお願いさせていただきます。

「任意後見」相談 受付中

認知症などの理由で判断能力の不十分な方は、不動産や預貯金などの財産管



理や、介護や施設入所などの契約を結ぶことができなくなる場合があります。このような判断能力の不十分な方々を保護し、支援するのが「成年後見制度」です。

大きく分けると「法定後見」と「任意後見」の2つの制度があります。「法定後見」は本人の判断能力喪失後に家庭裁判所が後見人を決めます。一方「任意後見」は、本人が判断能力のあるうちに、自分で後見人を（親族でも専門家でも）決めることができます。実際は誰を選べば良いかわからない、費用が心配と言う方が多く、妙光寺では、一般社団法人生活支援と協働して相談に応じています。

これまでに、お一人が契約段階となり、数名が検討中です。なかには相談後の思案中に認知症の症状が出て、「法定後見」にならざるを得なくなった方もおられます。契約しても支援が始まらなければ、負担になるような料金はかかりません。まずは検討して、早めに契約だけでもすることを勧めます。いつでも遠慮なく、ご相談下さい。